

仙台の今、未来への責任！

■発行／仙台市議会議員 野田ゆずる
〒981-3121 仙台市泉区上谷刈3丁目7-29-D103 Tel&Fax 022 (739) 9630

野田ゆずる議会レポート

令和7年第1回定例会報告


<https://www.y-noda.net>
info@y-noda.net

■ご意見・ご要望がありましたらお気軽にお寄せください。



令和7年第1回定例会 代表質疑時

今回の議会レポートは、令和7年第1回定例会報告です。

今定例会では、総額6756億7500万円の2025年度一般会計当初予算案を中心に論戦が交わされ可決されました。

また、以前より要望の多かった屋内遊び場の整備も発表され、西公園南側の旧市民プール跡地に予定させることとなりました。今回のレポートは、私の代表質疑と答弁の一部を記載させていただきました。

是非、一読いただき皆様の仙台市政へのご意見を頂戴したいと考えております。

令和7年第1回定例会 野田ゆずる代表質疑より

施政方針に込めた市長の決意

野田 任期残り半年となった今、2期目の市政運営を市長自身どのように感じているのか。また、次の4年間に向けた挑戦を期待するが、お考えは如何か。

答弁 多くの人々がこのまちに集い、持てる力を発揮し、仙台で暮らしたいと思うまちづくりこそ、私の考えるまちの中心はひとの姿だ。このような考えに基づき、多くの人の活躍を後押し、とりわけ、このまちの未来を担う子供、若者の成長を地域全体で応援していきたいという思いを込めた。

令和7年度予算編成にける意気込み

野田 本市の今後の収支見通しでも、10年間で4千億円近い収支不足が見込まれ、足元では市役所本庁舎整備などの大規模プロジェクトの事業費が当初の見込みを大きく上回る事態が続いている。

大型プロジェクトの着実な推進と財政運営についてどのような展望を持っているのか伺う。

答弁 歳入の根幹となる市税収入をはじめ、歳入アップの取組を積み重ね、DX等を最大限活用した効率的な業務執行でコストの最小化を図り、財政運営の持続性を確保しながら、子供たちが健やかに育ち、このまちに住んでよかったと市民の皆様実感していただけるよう、将来を見据えた積極的な施策にチャレンジしていく。

英語を核とした新たな教科設置

野田 新年度から、本市として初めてとなる独自の英語を核とした新たな教科の設置に向けて踏み出すこととなった。市長は、子供たちにどのような力が必要だと考えているのか、そして、どのような形で実現しようとしているのか。

答弁 情報技術が進む現代に生まれ育つ子供たちは、広い世界と瞬時にアクセスし、また身近な社会でも急速なグローバル化が進んでおります。

20年後、30年後の社会を担う子供たちには、早くから多様な価値観に触れ、

他者と協働して柔軟に思考する力を身につけることが重要であり、他者や、また他の文化との違いを理解することは、自己のアイデンティティを確立し、日本と郷土の文化や歴史を深く知ることにつながるものと考えている。

子どもの遊び場整備

野田 今回表明した屋内遊び場の整備は、これまで取り組んできた遊びの環境充実とも深く関わる。これまでの取組と遊びの環境整備に関する基本的な考えと、どのような検討を経て、西公園の南側エリアを候補地と考えたのか。

答弁 期待の声が大きい屋内遊び場についても、仙台らしい取組が重要と考え、自然を活用した屋外の遊びとの連続性や、多様な体験や学びの創出など、本市の魅力を象徴する遊び場となることを目指し、決断した。

野田 利用料金の考え方や供用開始に向けた今後の進め方、スケジュールは如何か。

答弁 令和8年度以降に整備に向けた設計を進める。利用料金は、多くの子供たちに利用いただく施設であることや、無料または低廉な施設を望む声が多いことも踏まえ検討していく。日々成長する子供のための施設であることを踏まえ、可能な限り早期の整備を目指していく。



屋内遊び場整備予定地(旧市民プール跡)

大河ドラマの誘致と大手門復元

野田 大手門復元に合わせ、大河ドラマ誘致に向けた取組は、本市を挙げての取組を期待する。地元経済界など関係者との連携についても併せて伺う。

答弁 大手門復元は、政宗公没後400年となる令和18年までの復元を目指して進めるとともに、仙台はじまりの地・青葉山が市民の皆様にもますます愛され、多くの観光客でにぎわうよう取り組んでいく。

大河ドラマの誘致は、本市の都市ブランドの向上や仙台・東北の交流人口拡大にもつながる取組であると考えている。新年度には地元経済界にも御参画いただき、誘致活動の中核を担う組織の立ち上げも計画している。

いじめ対策、不登校対策

野田 いじめを受けた子供が、やむにやまれず他の学区へ転校した場合、通学時間や距離が長くなり、交通機関の利用に係る家庭の経済負担も大きくなるとの声を聞いている。こうした家庭への支援について見解を伺う。

答弁 指定学校の変更に伴い、転校先までの通学時間や距離が長くなり、公共交通機関等の利用が必要となる場合には、保護者の経済的な負担が生じるものと認識しており、今後、交通費等の支援の具体の制度設計について検討していく。

野田 保護者同士で交流する場や子育て等についての専門家からの助言も必要と思われる。また、民間施設や退職教員が不登校支援を行うなどの連携がより求められると考えるが、今後の取組は如何か。

答弁 きめ細かく対応していくためには、ノウハウを有するフリースクール運営団体や退職教員によるネットワーク団体などとの連携も重要と考えており、現在、これらの団体との間で、登校に不安や悩みを抱える児童生徒等への支援に係る共同宣言を進めているところだ。

仙台市アリーナの市民利用

野田 フィギュアスケート発祥の地であり、荒川静香さんや羽生結弦さんといった偉大なスケーターを生んだ本市にとって、この施設が新たなスケート文化の発信の拠点となり、交流人口拡大にも寄与することを大いに期待する。

今後20年間、指定管理を委ねることとなり、指定管理料は年間約3億2千万円余が見込まれている。この指定管理料の妥当性について伺う。

【答弁】年間3億3千5百万円程度の指定管理料を見込んでいたが、事業者からは、稼働率の向上やコスト縮減の努力により、見込みを下回る金額が提示された。

また、光熱水費等は実費精算とするなど、過剰な支出を防ぐ措置等も併せて示され、妥当な範囲に収まったと考えている。

【野田】このアリーナが市民に愛される施設となるには、一般の市民にとって身近な存在となることが大切だ。これまで議会でも指摘があったように、トップスケーターによるアイスショーの実現や練習環境の改善だけでなく、市民の一般利用についても配慮が求められるが、如何か。

【答弁】一般利用は想定していないが、事業者からは、スケートリンクの一般開放を含め、市民向けイベントを年間4回程度開催する提案を受けている。市民利用のさらなる機会創出に向けて、競技団体等と連携し、フィギュアスケートをはじめ、様々なスポーツを楽しんでいただける環境を提供していきたいと考えている。

仙台駅前まちづくり

【野田】なぜ仙台駅前の開発は進まないのか。現在の状況をどう捉えているのか。

仙台駅前、青葉通に面した両街区は仙台の第一印象であり、それぞれの再開発に向けて本市がトータルでコーディネートし、仙台の顔と呼ばれるにふさわしい都心を形成していく必要があると考えている。今こそ動いて、都心再構築をしていただきたい。昨年度答弁以降、どのような検討をされたのか、今後どのような支援を行って、いつ頃事業を実現させていくのか、具体的にお答えください。

【答弁】新年度には専任性を持たせた人員配置を検討している。仙台の顔となる重要な場所であり、経済活動や交流の舞台として、内外から人々が集い、にぎわいと活力にあふれたエリアとなるよう、引き続き関係部局が一丸となって取り組んでいく。

【野田】事業者は採算が取れないのでなかなか難しいという御答弁もあったが、あれは民間の事業というよりも、もう公共事業と言ってもおかしくない場所だと、認識もしている。ぜひこれはもう市役所全体で考えていくべき課題だと思うので、

出来上がるまで、高橋副市長、しっかりとやっていただきたい。

【答弁】ここまで引っ張ってしまうと、なかなかいつまでというのは言いづらいが、まずは第一步を踏むように、先ほど都市整備局長が答えたように、建物を最初に壊すという考え方も確かにあるんです。ただ壊してしまうと、それはないものとして事業を始めなければいけないので、そここのところは、やはり事業者さんと慎重に検討した上で進めてまいりたい。

下水道管路の安全対策

【野田】道路陥没は、一たび発生すると大事故につながる大変危険なものであり、市民生活に及ぼす影響は甚大だ。市民の安全・安心な暮らしを確保するため、確実に道路陥没を未然に防止しなければならない。どのような対策を行っているのか。

当局は危機感を持って、将来にわたり確実に維持管理していくべだが、如何か。

【答弁】老朽化の状態や施設の重要度などに応じたリスク評価をして調査を行っている。

このほか約430 kmの緊急輸送道路において路面下の空洞の有無を調査し、埋設年次も踏まえ調査を進めていく。

また、腐食する要因である硫化水素が発生しやすい箇所については、5年に1回の点検が定められており、本市では191か所を点検している。

不具合等を確認した場合には、改築や修繕等の対策工事を行っているところで、新年度より、調査延長を大幅に増やし、老朽化対策のペースアップを図っていく。

新たな観光戦略と宿泊税

【野田】年間の宿泊者数680万人泊を掲げている。600万人泊まで回復し、2024年も増加が見込まれるものの、人口減少や、都市間競争の激化も見込まれ、達成は決して容易ではない。インバウンドを倍増させるなども盛り込まれているが、目標達成のための戦略について伺う。

【答弁】新たな観光戦略を策定し、訴求力のあるコンテンツの造成やインバウンドの新規市場開拓などを盛り込んだ、1年を通してまちににぎわいを生み出すことができる都市を目指し、地域一体となって仙台観光の新たな時代を切り開いてまいりたい。

野田 宿泊税の使途は如何か。

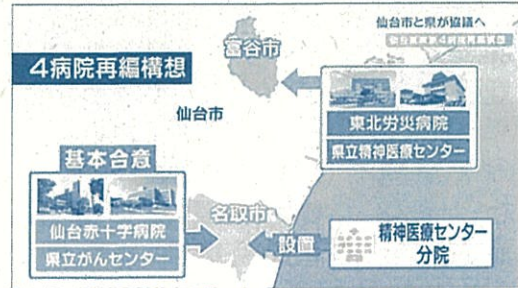
答弁 観光コンテンツの造成、宿泊・連泊の促進、観光の基盤にある宿泊事業者の支援という三つの視点をお示し、新たな観光スポットの整備や漫画、アニメの拠点づくりなど、複数年次にわたる取組などを中心に充当し、計画的に観光地としての魅力向上を図っていく考えだ。

4 病院再編

野田 知事は、仙台赤十字病院移転後の跡地利用に関し、日本赤十字社と本市を交えて協議したい意向を示した。県が対応案を示すべきという考え方は理解するが、地域の思いも踏まえて、本市の役割も重要だ。移転跡地に関し、どのような役割を果たしていくのか。

答弁 県からは、県、仙台赤十字病院、地域、本市の4者での意見交換を提案されたが、まずは主導する県が具体的な対応策を示すべきであることを伝えた。

地域の医療体制は、住民の皆様の命や健康に関わる切実な課題で、県が地域や本市にどのような対応を行うのか、状況を



踏まえ、市民に最も近い基礎自治体として、本市が担うべき役割を見極めたい。

野田 県は東北労災病院の富谷市移転に関する労働者健康安全機構との協議を継続しようとしているが、本市の見解を伺う。

答弁 東北労災病院は、本市の救急医療の中核的役割、また、地域医療支援病院として診療所等との連携推進の役割を担っている。今後、高齢化の一層の進展により医療需要が増していく中で、本市の地域医療を支えるために力を発揮していただくことを期待している。

北部急患診療所

野田 大型連休や年末年始になると、大変混雑していて時間がかかり、そもそも待合室が非常に狭い。駐車場ももう全く足りない。ビルの一角に入居するあの場所での改善はまず難しいのではないかな。

北部急患診療所と二次救急医療機関といった、より大きな病院との併設の方向で早急に進めるべきと考えるが如何か。

答弁 御指摘のとおり、施設規模ですとか駐車場などをはじめとして様々な課題が指摘されており、初期救急医療機関としての機能を十分に発揮することができるよう、今後、速やかに見直しをしていく必要があると認識している。

高次の救急医療機関との隣接、併設といった方策は、駐車場等の施設や設備を活用できるという物理的なメリットにとどまらず、何よりも患者の方々の症状に応じ、速やかに高度な医療を提供できるなどの効果が期待できることから、有効な方策の一つと考えており、今後、課題の整理や併設等を含めた見直しの方向性の検討について、スピード感を持って進めていく。

声をお聞かせください

仙台市や地域に思う事や、行政や国に対して思う事など皆様のお考えをお聞かせください。左記のハガキにお書きいただき、お近くのポストにご投函お願い致します。

郵便はがき

9 8 1 - 3 1 9 0

(受取人)

泉区上谷刈3丁目7-29
D棟103

仙台市議会議員(泉区)

野田 ゆずる 行

あなたの声をお聞かせくださいお聞かせください



料金受取人私郵便

泉 局
承 認

3062

差し出し有効期間

2025年

4月30日まで

切手不要

お名前	フリガナ	生年月日
ご住所	〒□□□□□□	
電話番号	()	ご職業
アンケート	あなたが重視する、仙台市政の課題は何でしょうか?(複数回答可)	
	☐ 安心・安全の防災対策 ☐ 価格高騰への支援	
	☐ 子育て支援・教育の充実 ☐ 行財政改革・議会の活性化	
	☐ 福祉・介護の充実と弱者支援 ☐ 国土強靱化・インフラ整備	
	☐ 地元経済の活性化 ☐ 4病院再編への対応	
ご意見		